

◇広域的な観光振興の取り組み

- ・「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の世界遺産登録事業
 - ・「北九州地区観光協会」事業（300千円＋α）
 - ・東九州自動車道を利用した旅の情報誌作成事業
 - ・「東アジアからの観光客誘致」事業
 - ・韓国における東九州新観光ルート宣伝事業
- } (17,000千円)
など

Ⅱ 高次の都市機能の集積

◇広域的な高度医療サービスの取り組み

- ・三次救急医療〔北九州市立八幡病院〕（2,106,721千円）
- ・母子周産期医療〔北九州市立医療センター〕（1,462,038千円）
- ・先進的がん医療〔北九州市立医療センター〕（31,710千円） など

◇環境首都総合交通戦略の推進

- ・公共交通を活用した東九州軸との結びつき強化
- ・筑豊電気鉄道の高機能化
- ・下関北九州道路の整備促進 など

◇コンパクトシティ形成の推進（計画検討）

Ⅲ 圏域全体の生活関連サービスの向上

◇人材育成の取り組み

- ・匠に学ぶ技能講習会（1,573千円）
- ・圏域市町職員のための政策研修（1,000千円） など

◇公立図書館等の広域利用

◇交通インフラの確保

- ・北九州市営バスの広域運行
- ・筑豊電気鉄道の高機能化 など

◇広域インフラ協力

- ・上下水道事業
- ・一般廃棄物処理 など

◇ICT分野の共同利用

- ・地理空間情報システム（GIS）の共同利用
- ・自治体基幹システムのBCP確保のためのバックアップ推進 など

(2) 北九州市・都市圏域（福岡県北東部地域）の方向性

北九州市・都市圏域（福岡県北東部地域）は、福岡県の北東部に位置し、恵まれた自然環境と陸海交通の要衝という立地特性を活かし、古くから栄えてきた。明治時代に官営八幡製鐵所が操業されて以来、筑豊の石炭を背景にわが国屈指の重化学工業地帯として、さらに発展し、この都市圏域を形成するに至った。

しかし近年「超高齢・少子化社会の到来」「地球規模の環境問題の深刻化」「アジア諸国の経済発展」「高度情報化社会」「地方分権に向けた動きの進展」など、全国規模で、社会・経済情勢が大きく変化している。

本都市圏域の各市町においても、

- ・「地域経済の活性化」
- ・「人口減少に歯止めをかける定住促進施策の推進」
- ・「空き家対策を含む住宅施策の見直し」
- ・「子育て支援の充実」
- ・「環境問題への取り組み」
- ・「公共交通の利便の向上」
- ・「公共施設の再編と長寿命化」
- ・「効率的で質の高い住民サービスの提供」
- ・「防災・防犯対策の推進」

といった解決すべき多くの課題を抱えている。

また、最近では、九州においても、福岡市への一極集中や、西九州軸、東九州軸の交通ネットワークの格差の是正、有機的な機能分担による新しい時代に対応した市町村連携などが求められている。

そこで、福岡県の総体的な発展や東九州軸の活性化を図る観点からも、本圏域の扇の要である北九州市を中心とし、圏域全体の一体的な発展を図っていく必要がある。

しかしながら、北九州市・都市圏域（福岡県北東部地域）は、古くから交流が盛んなひとつの圏域である一方、歴史的な経緯から、周防灘に面した“豊前の国”である「京築地域」と、響灘に面した“筑前の国”である「中遠地域」「直鞍地域」とは異なる文化・生活圏を構築している。

そのため、本圏域においては、このような厳しい状況の中、各市町が抱える課題に、効率良く的確に対応するため、「圏域全体で取り組むことが効果的な施策・事業」「地域ごとで取り組むことが効果的な施策・事業」などを検討しながら、連携・協力を推進していくこととする。

さらに「連携協約」については、既に連携・協力している事業等もあるため、準備が整い、合意形成の図られた市町と先行的に締結していくことも視野に入れて進めて

いきたい。

また、本圏域の市町だけでなく、圏域に隣接する市町についても、「連携協約」の締結も含め、連携・協力を推進し、今後も北九州市・都市圏域（福岡県北東部地域）の地域経済の活性化を図っていくこととする。

